

「とよなかブックプラネット事業」は、学校図書館と市立図書館の蔵書を一体的かつ効果的に活用する環境を整備し、児童生徒の読書活動を促進するため、平成25年4月に読書活動支援システムの導入を完了しました。学校図書館では、整備された環境を活かして、子どもたちの読書意欲に応えるだけでなく、授業づくりに役立つ資料集めなどお手伝いします。ブックプラネット通信では、学校図書館での取組みなどを紹介していきます。

10/29 学校図書館活用研修「学校図書館教育でカリキュラムマネジメント」が実施されました



「学校図書館は教科と教科の学びをつなぐことができる場所です。図書館で調べ学習をおこなう際にはそれ自体を目的とせず、教科のねらいや目標に基づいて、目的をもって調べることが大切。」と今回の講師としてお招きした野畑小学校教頭 小林洋子先生はおっしゃいました。実際に、次期学習指導要領では、学校図書館等を活用して、主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善に生かすことが前回の要領よりさらに明確に記載されています。

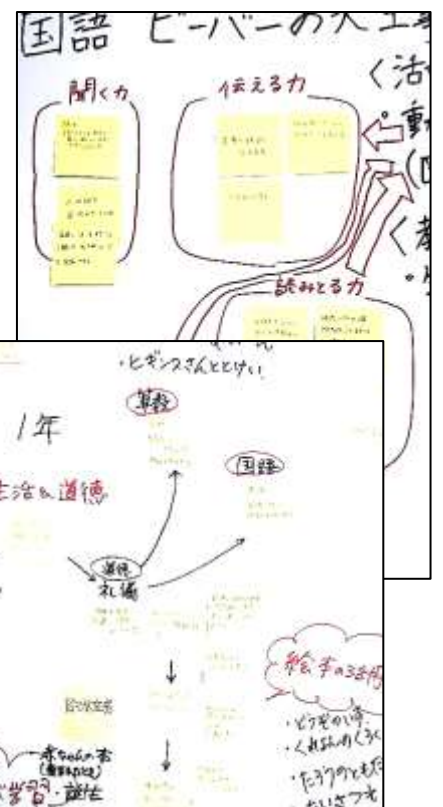
調べ学習って、必要？授業時数が足りないけど…

学校図書館を活用しようと思っても、時数が足りないと感じたときはありませんか？年間計画を立てる際には、重点単元を設定し他教科とのつながりを意識することが大切です。その際には、ねらいに即した実践を考えることにより、学校図書館の活用がより効果的となります。今回の研修では、小林教頭先生から、カリキュラムマネジメントの考え方を通して、学校図書館を活用した授業計画をたてる重要性を学びました。

さて、講義のあとは、**みんなでワークショップ**もしました

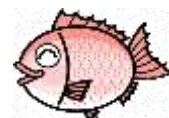
【ワークの流れ】

- ① 子どもたちにどんな力をつけたいのか、またどのような学力が必要なのか話し合う。
(ここは、本来は学校教育目標に則って話し合うポイントです。)
- ② ①の力をつけるための「重点単元」を決めていく。
(授業活用事例「とよなかスタンダード」や教科書も活用しながら)
- ③ ほかの教科や活動とも結びつけながら、学習活動を考える。
常に、つけたい力も意識する。
- ④ 効果的に学校図書館を活用する場面の設定や活用できる資料の検索をする。
- ⑤ グループごとに発表・交流。





野畑小学校 小林教頭先生より



「充実した環境をぜひ活かして、豊中らしい取組みを！」

学校司書は、各学校の授業実践や特色ある取組みを知っているだけでなく、どのような場面で学校図書館を活用することが効果的なのかも、よく理解しています。また、全学年の学びを俯瞰してみることができる貴重な存在です。豊中市は早くから1校に1人、専任の学校司書を配置しており、経験豊かな学校司書が多数在籍しています。たとえば学年会を学校図書館で行うと、教員の考えるねらいや目標に適した資料やその活用法のアイデアも、学校司書からいただけるかもしれません。学校司書のチカラをうまく活用し、子どもたちにつけたい力を、教科横断的な視点での授業づくりに活かしてほしい。



中豊島小学校 舟岡校長先生より



「1年後の成長した子どもの姿を想像して…」

今日のワークショップでは、全学年で共通してつけたい力として、「読む力」「書く力」「伝える力」が挙がっていましたが、それは、おもに国語でつけたい力と思われがちですが、他教科ともつなげることで、より学校図書館がサポートできる存在であると今日は実感できたと思う。本来ならば、4月の段階でこういった取り組みをして、年間計画を立てることが大切。昨年度の年度末反省を生かして、学校教育目標と照らし合わせながら、子どもにどんな力をつけたいか、意識して授業を計画してほしい。

「1年後、子どもたちをこういう風に育てたいね」…の気持ちを大事に。

受講者（教員、学校司書）より

○日々の活動に追われがちですが、しっかり図書館の活用の計画を立てて授業を組み立てていくと、子どもたちがこんなに力がつけられていいなと、改めて感じる機会となりました。

○各学年でつけたい力の指標がはっきりし、計画的に学習の年間目標をたてる重要性がわかりました。

○他教科との学びをつなぐという考えがなかったので、気づきとなりました。ワークショップもこの方法なら短時間で意見を出し合い、まとめることができ、学年会でも活用できると思いました。

○短時間でまとめるのは難しいかと思いましたが、先生がうまくまとめて下さり、授業計画の立て方もよくわかりました。やはり、司書だけではなく先生も一緒に参加する研修は必要であると思いました。また先生と一緒に参加する研修を計画してください。

